

テーマ：消費者物価（全国 7 月、東京都区部 8 月） 発表日：2011 年 8 月 26 日（金）
～10 月以降は再びマイナス転化する可能性あり～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL：03-5221-4528

（単位：％）

		全国					東京都区部				
		総合	生鮮除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギー除く総合	石油製品	生鮮食品を除く食料	総合	生鮮除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギー除く総合	石油製品	生鮮食品を除く食料
		前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
10	1月	▲ 1.3	▲ 1.3	▲ 1.2	10.9	▲ 1.5	▲ 2.1	▲ 2.0	▲ 2.0	14.2	▲ 2.0
	2月	▲ 1.1	▲ 1.2	▲ 1.1	11.5	▲ 1.4	▲ 1.8	▲ 1.8	▲ 1.6	12.7	▲ 1.6
	3月	▲ 1.1	▲ 1.2	▲ 1.1	12.0	▲ 1.8	▲ 1.7	▲ 1.8	▲ 2.0	14.2	▲ 2.0
	4月	▲ 1.2	▲ 1.5	▲ 1.6	13.2	▲ 1.6	▲ 1.5	▲ 1.9	▲ 1.8	13.1	▲ 1.8
	5月	▲ 0.9	▲ 1.2	▲ 1.6	15.7	▲ 1.7	▲ 1.4	▲ 1.5	▲ 1.9	16.5	▲ 1.9
	6月	▲ 0.7	▲ 1.0	▲ 1.5	12.3	▲ 1.3	▲ 1.0	▲ 1.3	▲ 1.7	11.8	▲ 1.7
	7月	▲ 0.9	▲ 1.1	▲ 1.5	7.8	▲ 1.4	▲ 1.2	▲ 1.3	▲ 1.9	5.9	▲ 1.9
	8月	▲ 0.9	▲ 1.0	▲ 1.5	7.0	▲ 1.3	▲ 1.0	▲ 1.1	▲ 1.7	4.4	▲ 1.7
	9月	▲ 0.6	▲ 1.1	▲ 1.5	4.0	▲ 1.4	▲ 0.6	▲ 1.0	▲ 1.6	1.7	▲ 1.6
	10月	0.2	▲ 0.6	▲ 0.8	4.0	▲ 1.3	0.3	▲ 0.5	▲ 1.2	3.7	▲ 1.2
	11月	0.1	▲ 0.5	▲ 0.9	5.0	▲ 1.2	0.2	▲ 0.5	▲ 1.1	4.1	▲ 1.1
	12月	0.0	▲ 0.4	▲ 0.7	5.8	▲ 1.1	▲ 0.1	▲ 0.4	▲ 1.3	4.7	▲ 1.3
11	1月	▲ 0.6	▲ 0.8	▲ 1.3	8.4	▲ 1.1	▲ 0.5	▲ 0.8	▲ 0.8	8.4	▲ 0.8
	2月	▲ 0.5	▲ 0.8	▲ 1.3	7.6	▲ 1.0	▲ 0.5	▲ 0.8	▲ 1.0	6.3	▲ 1.0
	3月	▲ 0.5	▲ 0.7	▲ 1.4	12.5	▲ 0.8	▲ 0.7	▲ 0.8	▲ 0.9	12.4	▲ 0.9
	4月	▲ 0.4	▲ 0.2	▲ 1.1	12.6	0.0	▲ 0.7	▲ 0.5	0.0	13.4	0.0
	5月	▲ 0.4	▲ 0.1	▲ 0.8	9.3	▲ 0.1	▲ 0.6	▲ 0.4	▲ 0.4	9.6	▲ 0.4
	6月	▲ 0.4	▲ 0.2	▲ 0.8	7.9	▲ 0.3	▲ 0.6	▲ 0.4	▲ 0.6	7.7	▲ 0.6
	7月	0.2	0.1	▲ 0.5	9.8	▲ 0.2	0.1	▲ 0.1	▲ 0.3	10.8	▲ 0.3
	8月	—	—	—	—	—	▲ 0.2	▲ 0.2	▲ 0.4	13.1	▲ 0.4

（出所）総務省統計局「消費者物価指数」

（注）2010 年 12 月以前の前年比は 05 年基準の値

○ 08 年 12 月以来のプラス転化だが、10 月以降は再び水面下に沈む可能性あり

総務省より発表された 2011 年 7 月の全国消費者物価指数（生鮮食品除く）は前年比+0.1%（6 月：同▲0.2%）となり、市場予想（同▲0.1%、筆者予想：0.0%）を上回った（季調済み前月比+0.1%）。前年比でのプラスは 08 年 12 月以来のことである。ガソリン価格や電気代の上昇によりエネルギー価格のプラス寄与が拡大したほか、燃油サーチャージの影響で外国パック旅行のプラス寄与も拡大するなど、過去の資源価格上昇の影響が出た形になっている。また、食料品（生鮮除く）のマイナス寄与が縮小したことも C P I プラス転化に寄与している。そのほか、テレビや携帯電話機のマイナス寄与が縮小したことから、食料・エネルギーを除く総合（米国型コア）も前年比▲0.5%と、前月（同▲0.8%）からマイナス幅が縮小した（季調済み前月比は横ばい）。テレビについては、地デジ完全移行前の駆け込み需要で販売が好調だったことが影響しているのかもしれない。

もともと、久々のプラス転化とはいえ、足元の消費者物価指数は、エネルギー価格に加え、昨年 10 月に値上げがあったたばこや傷害保険料などの制度的要因によって押し上げられている面があることには注意が必要である。C P I コアはエネルギーにより 0.50%Pt、たばこ傷害保険料により 0.34%Pt 押し上げられており、この要因を除けば前年比▲0.7%になる。エネルギーや制度要因などの攪乱要因を除いて考えると、ヘッドラインの数字で示されているよりも物価の基調は弱い。なお、たばこ傷害保険料に関しては、10 月

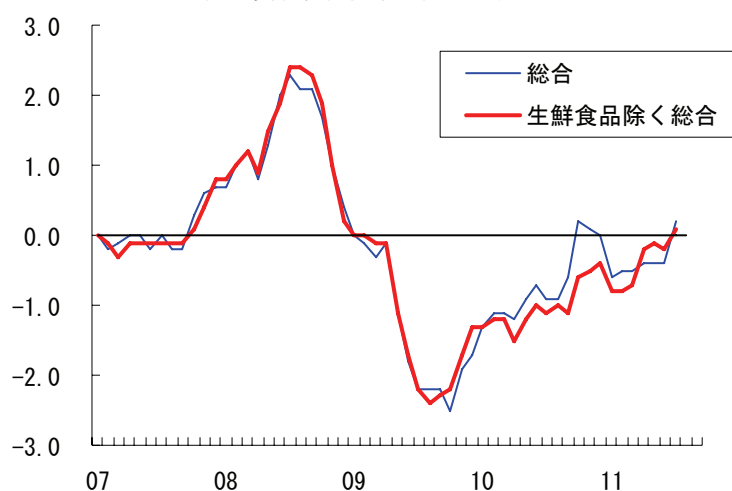
になれば前年比での押し上げ効果が剥落する。また、エネルギー価格についても、原油価格下落や円高の影響が次第に顕在化してくることから、秋以降はプラス寄与が縮小してくると思われる。C P I コアは、8、9月については7月よりもプラス幅が拡大するとみられるが、10月以降には再び水面下に沈む可能性があるだろう。物価が基調としてプラスになる時期は、まだ展望できる状況にない。

○ 8月の東京都区部はマイナス幅が小幅拡大

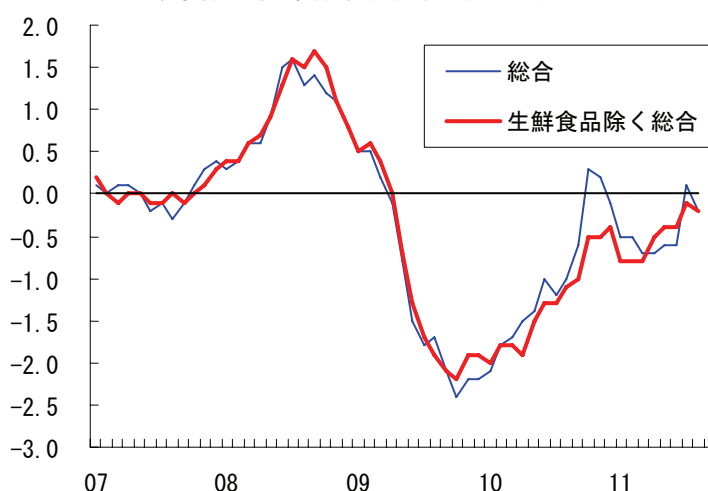
2011年8月の東京都区部消費者物価指数（生鮮食品除く）は前年比▲0.2%（7月：同▲0.1%）と、マイナス幅が小幅拡大した（季調済み前月比横ばい）。過去の資源価格上昇の影響が後れて出ていることからガソリン、電気代などのエネルギー価格のプラス寄与が拡大した一方、航空運賃のプラス寄与が縮小したこと等が下押し要因になった。また、米国型コアも前年比▲0.6%と、前月の▲0.4%からマイナス幅を拡大させている（季調済み前月比▲0.3%）。

なお、8月の東京都区部のC P I コアは前年比でのマイナス幅が拡大したが、8月の全国C P I コアについては、ガソリンのウェイトが東京都よりも大きいこと等が影響するため、プラス幅が7月から小幅拡大する可能性が高いと思われる。

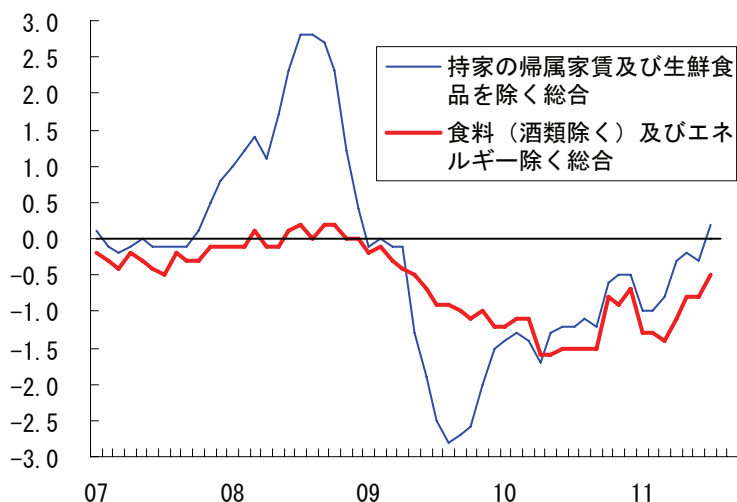
全国消費者物価指数（前年比、%）



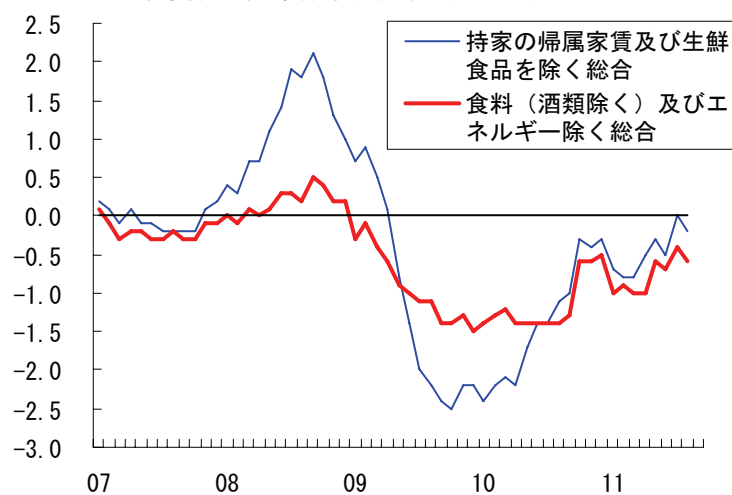
東京都区部消費者物価指数（前年比、%）



全国消費者物価指数（前年比、%）



東京都区部消費者物価指数（前年比、%）



（出所）総務省「消費者物価指数」

（注）2010年12月以前の前年比は05年基準の値